

'2013年度 第3圃場造成の期待が膨らんできました！

'13年4月7日(日)～4月15日(月)
相模川湘南地域協議会 記録:中門吉松

4月15日(月) 峯谷代表が国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所相模出張所の「川の安全利用点検」に市民代表として参加。
昨年度は増水による圃場の冠水が一度だけだったが、今年は「春の爆弾低気圧」などの影響で早くも冠水、ロゼットはシルトで覆われた。



圃場造成について相模出張所所長から期待の持てるお話が頂けたようです。(代表からコメントあり)

倉本先生からアドバイス頂いた圃場拡張目標



爆弾低気圧後はそれほど影響なかったが数日前に増水して冠水。しかし、ロゼットは遅しい。

さがみ縦貫道開通前ウォークで高速道からの全景

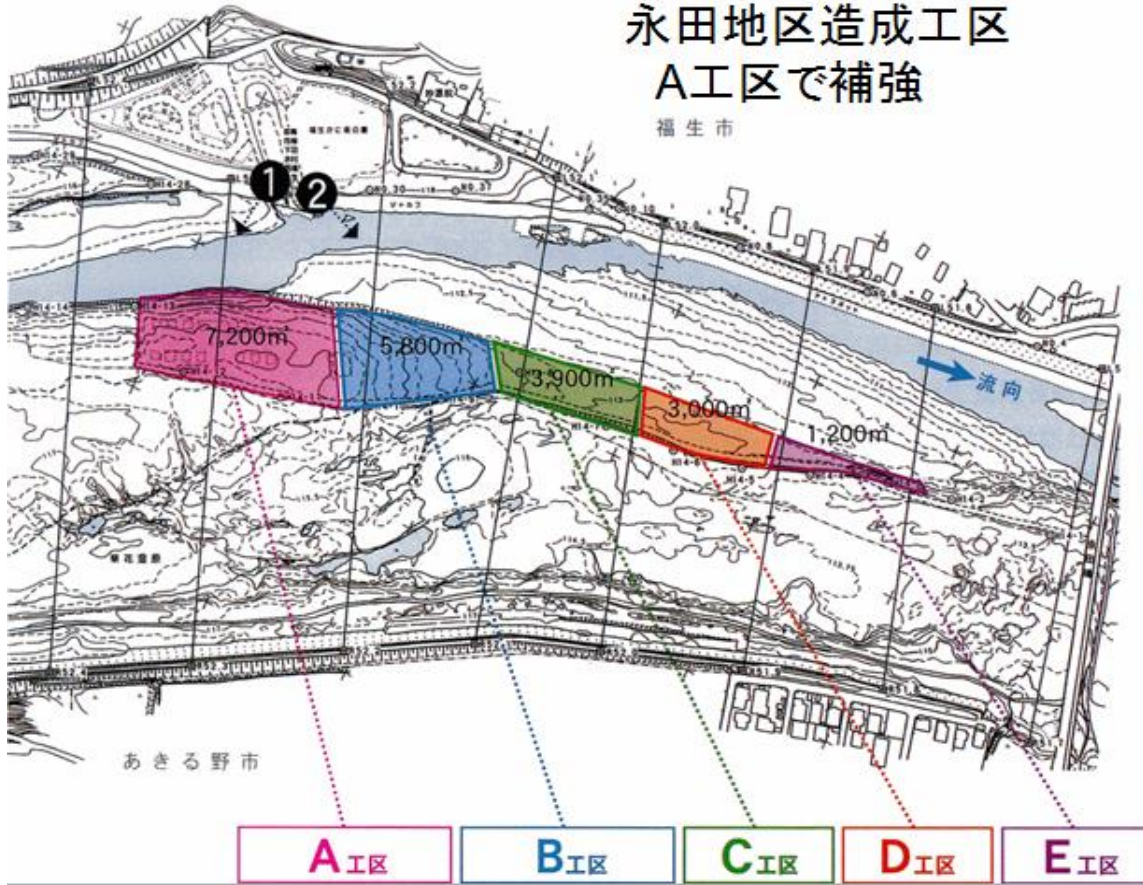
圃場造成について

2011年9月18日 アジェンダ専門部会にて倉本先生講演内容から転載・・・カワラノギクの生態と保全(多摩川での研究から)

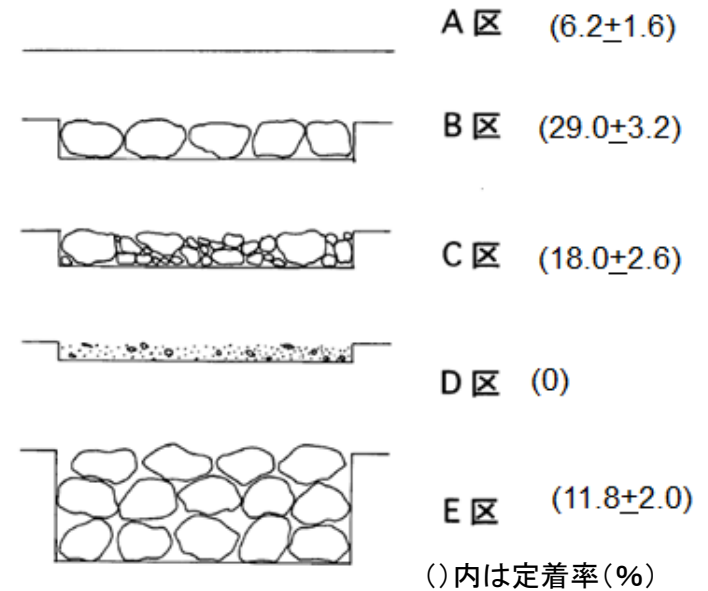
永田地区造成工区

A工区で補強

福生市



実生の定着を調べた丸石河原処理区



倉本宣・小林美絵(2002)多摩川におけるカワラノギクのレストレーションランドスケープ研究65(4),298-301

これは行政が永田地区に造成してくれた人工区の図です。A工区は広いものの、ここをカワラノギクの緊急避難的な場所として造りました。A工区は5年に1回の冠水になるように造っています(7200㎡)。これが最初の状態で、2000年に造成したのですけれども、2007年に出水があって、それから今年も出水がありましたけど、2007年には3分の2くらいにA工区は削れてしまいました。A工区にしか播種はしてないのですけれども、2007年の出水以降、C、D工区に非常にたくさんのカワラノギクが発生するようになって、この事業が非常に成功だったと皆さんが思うようになっていました。でも、私たちは、いずれまた大きな出水があれば、このカワラノギクも無くなってしまっても分からないので、ここにもちゃんとカワラノギクを残しておかないといけなと考えているわけですが、もししたらそれもいらないかも知れないと京浜河川事務所が思うぐらい、ここにはカワラノギクがいっぱい生えるようになりました。

これは最初にどういふ河原を造るかを考えるために、予備実験、あらかじめ試しにやってみることで、Bのところがいちばんよくカワラノギクの実生が定着したので、Bのようなものをいっぱい造りました。実際には、このBでもCでもあまり関係がなく、こういう実験を詳細にやってもあまり意味がないということが後で分かりました。どうしてなのかという、実験はこうやって掘り込んでいますけれども、ある規模で行うということになると、どこまでも同じような状態になるわけで、この掘り込んだような状態と、実際にこのやり方で工事をするのでは条件が異なることが後で分かりました。【講演内容】保全活動の内容について抜粋